

はじめに



平成 13 年 1 月 21 日に、旧田無市と旧保谷市による全国でも例のない都市型対等合併を成し遂げ誕生した西東京市も、本年度で 10 周年を迎えました。

この間、我が国を取り巻く社会経済情勢は、世界経済のグローバル化の伸展や世界的不況による景気後退のほか、急激な円高による国内輸出産業への打撃など、より一層厳しさを増しております。

一方、国内に眼を向けますと、疲弊する地方経済やデフレスパイラルによる価格競争の激化、さらには新卒者をはじめとする雇用不安など、課題・問題が山積しております。

本市におきましても、これらの諸課題に加え、合併に伴う財政支援メニューの終了や新たな行政需要の増加などへの対応が急務となっております。

しかしながら、少子高齢社会における人口減少問題を抱える我が国の中で、合併当時の人口が 18 万人に満たなかった本市は、この 10 年で 20 万人の突破を目前としております。

このことは、これまでこのまちを支えていただいた市民と新たな市民が融合し、大きなエネルギーとなって地域の伝統や文化に新たな息吹を吹き込み、西東京市を「住宅都市」から「生活文化都市」へ変貌させることに結実してまいりました。

そして、これからも魅力あるまちづくりを推進するためには、産業の振興は最重要施策のひとつであります。このたびの「西東京市産業振興マスタープラン」は、その実現に向けた 13 年間の長期ビジョンであり、このマスタープランを達成することがまちを豊かにし、市民の生活を支える礎となるものと確信しております。

そのためには、行政がリーダーシップを発揮することはもちろんのこと、各種団体や事業者、市民の皆様がそれぞれの立場で協力しあい、地域間競争に立ち向かうことが必要不可欠であります。議会並びに市民の皆様をはじめ、本市にかかわる全ての方々に心からご理解とご協力をお願いする次第でございます。

むすびに、マスタープランの策定に当たり、多大なご尽力を賜りました西東京市産業振興マスタープラン策定委員会の水谷俊博会長をはじめ、委員の皆様のご労苦に深く感謝と敬意を表し、あいさついたします。

平成 23 年 3 月

西東京市長

坂口光治